

市長公約「大田原市の
子どもの未来を守る」
について



齋藤 光浩 議員



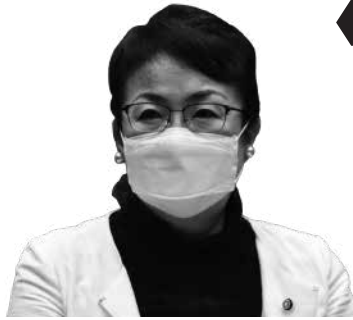
質問..小学生のランドセルについて、毎日背負う子供たちにとって重過ぎるとの声を伺いました。子供の健康に影響があるかもしれない重いランドセルについて、本市の現状と考え方について伺います。

答弁..いわゆる置き勉、学校に教科書等を置いていくということについては、学校では特に禁止はしていません。どちらかと

いうと推奨していると考えています。特に、道徳の教科書であったり、社会の資料集、あるいは理科、家庭科、書写、保健体育など家庭に持ち帰る必要のないものについては学校に置いておくように学年で統一したルールを設け、児童生徒の負担軽減を図っています。また、さんぼセルの使用については、例えば、ランドセルは両手が使えますが、

さんぼセルを使用した時、雨の日に傘を差すと両手が使えないなど危険性も考えられることから、使用を推奨するという事は考えていません。児童の登下校の負担軽減については、今後も各学校と連携し、荷物の持ち帰り等についてさらに検討してまいりたいと考えています。

一般質問



伊賀 純 議員



市内コロナ感染症
の対応について

質問..コロナ感染者数のよいちメールでの情報提供、発信について伺います。

答弁..県の公表内容が一月に変わり、年齢性別情報がなくなつた為、6月30日まで市と県内の新規感染者数のみをよいちメールで配信してきました。6月末でメール配信をなくしたのは、

県のホームページや新聞紙上で市町別の新規感染者数が確認で

き、また市ホームページでも状況を確認できるためです。
質問..配信する職員負担は、どのくらいか伺います。

答弁..それほど手間は無いです。
質問..感染防止対策として意識の覚醒を通して自己予防が必要

です。よいちメールの登録者も増え、タッチ1つで便利に情報が得られるのに、情報と市民の距離をなぜ遠ざけてしまうのか、

ホームページを自身で開く高齢者が何人いるのか、情報の必要性への想像力をもつと持つて頂きたいと思いますが、今後の情報の在り方の認識を伺います。

答弁..一番効率的なやり方を考えるのも行政は必要で、よいちメールと同様に県のメールに登録してもらえれば情報の差異はなく、広く情報の取り方、取れることを常に考えています。